

一般社団法人 エネルギー・資源学会

令和3年度 事業計画書

(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染予防のために令和3年度も学会行事等に対して様々な制約が加わる可能性があるが、できる限り活発な学会活動を行い、エネルギー・資源に関する諸問題の解決に寄与する共に、会員相互の連携の強化、ならびに会員増加等につながる施策の展開をはかる。また、更新されたウェブサイトを活用して情報発信を積極的に行い、開かれた、親しみやすい学会運営をすすめる。

2. 企画関係事業計画

(1) 研究発表会

学会員の研究成果を発表する場として、第40回エネルギー・資源学会研究発表会を8月上旬に2日間の日程で開催する。

(2) エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス

研究成果発表の場として関連団体との共催で第38回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス（以下、コンファレンスという）1月下旬に2日間の日程で開催する。

(3) 特別講演会

研究発表会・コンファレンス開催に合わせて、特別講演会を都合2回、開催する。

(4) 研究プロジェクト

昨年度からスタートした研究プロジェクト「エネルギーの脱炭素化に関する調査研究」の第一期（後半）の調査・研究を行う。

(5) 懇話会

エネルギー・資源・環境・経済等をキーワードとした喫緊のテーマについて、各界から第一人者である話題提供者を招聘し、参加者と自由闊達に意見交換する懇話会を年6回、開催する。会終了後には、話題提供者を交えた技術交流会を行う。

(6) 研究部会・ワークショップ

多様なバックグラウンドを持つ若手参加者を中心に、研究テーマを設定し基本的な議論・ディベートやチームビルディング過程を体験しながら意見交換や技術交流を行う場として、オータムワークショップ2021を10月に開催する。

(7) 研究委員会

① 2050年に向けた日本のエネルギー需給

我が国の温室効果ガス低減に向けた長期発展戦略の策定のための情報整理と議論に併せて、長期的なエネルギー需給の道筋に関する調査・検討を行い、その成果を学会会員、学会外に対し発信する。

② 家庭部門のCO₂排出統計調査利用研究会（第二フェーズ）

環境省の実施している家庭部門のCO₂排出統計の調査票を利用し、研究会メンバーそれぞれの研究領域から多様な視点で分析し、意見交換や議論をすすめ、その成果を学会会員、学会外に対し広く発信する。

(8) 講習会・講座

最新の研究や技術開発の動向等について、専門家講師による講習会、講座を年数回、開催する。

(9) 研究会・見学会

エネルギー・資源・環境に係わる最新設備の見学や専門家の講演等を通じて、最新知見を得られる場として、研究会・見学会を年4回程度、開催する。

(10) その他

① エネルギー検定

日本エネルギー学会との共同企画により、学会ホームページにエネルギー検定の案内を掲載する。

② 共催行事への対応

本学会の目的に合致する場合、他の団体との共催行事を開催する。

③ 受託研究の受注

本学会の目的に合致する場合、受託研究を行う。

3. 編集関係事業計画

(1) 会誌「エネルギー・資源」の刊行

年6回奇数月の10日に会誌を刊行する。

(2) 会誌・論文誌のウェブサイトへの掲載

正会員B、学生会員を主な対象として電子版の会誌をウェブサイトに掲載する。

査読・採択された研究論文・技術論文は、J-STAGEに「エネルギー・資源学会論文誌」として公開する。

(3) その他

学会の国際化を進めるため、学会誌への英文投稿も受け付ける。

4. 総務関係事業計画

研究発表会の開催に合わせて、第10回学会賞・学会貢献賞、第9回茅賞・学生発表賞、第17回論文賞の表彰式を開催する。

5. 主な会議予定

(1) 社員総会

令和3年度（第42期）定時社員総会を令和3年6月10日に大阪で開催する。

(2) 理事会

定例理事会を3回、臨時理事会を1回、開催する。あわせて学会賞・学会貢献賞選考委員会を年2回程度、開催する。

(3) 企画実行委員会

行事の企画、実行計画の策定・承認等を目的として、企画実行委員会を年間5回、開催する。あわせて茅賞・学生発表賞選考委員会を年2回程度、開催する。

(4) 編集実行委員会

会誌の企画等の審議を目的として編集実行委員会を年間6回、開催する。あわせて査読委員会を年間6回、論文賞選考委員会を年3回程度、開催する。

(5) 総務委員会

理事会に上程する議案の整理等を目的として総務委員会を年3回、開催する。

6. その他の実施施策等

(1) ウェブサイトの継続的な改良

昨年度リリースしたウェブサイトについて、会員の意見等を踏まえて改良を行う。

(2) 学会のデジタル改革の推進

オンライン会議の定着や行事申込み等のデジタル化を推進し、業務の効率化と情報の共有化を推進する。

(3) 規程類の整備とガバナンスの充実

一般社団法人として整備の遅れている規程類を制定してゆくと共に、学会全体のガバナンス強化に努める。

(4) 新型コロナウイルス対策の継続

学会行事等で感染やクラスター発生を予防するため、必要な施策を実施する。

また、感染状況によっては行事や会議をオンライン開催に変更、あるいは規模を縮小、または中止することもある。

以上

【事業計画書 附属明細書】 個別行事实施計画

1 研究発表会

第40回エネルギー・資源学会研究発表会

[日 時] 令和3年8月2日(月)～3日(火)
[場 所] 立命館大学大阪いばらきキャンパス(予定)
[発表時間] 1件20分(講演15分、討論5分)

第38回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス

[日 時] 令和4年1月25日(火)～26日(水)
[場 所] 東京大学 生産技術研究所 As棟・An棟(予定)
[発表時間] 1件20分(講演15分、討論5分)
[共 催] 電力中央研究所、日本エネルギー経済研究所、エネルギー総合工学研究所、地球環境産業技術研究機構、
(予定) コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
[後 援] 新エネルギー・産業技術総合開発機構
(予定)
[協 賛] 化学工学会、日本原子力学会、日本エネルギー学会、(株)三菱総合研究所、電気学会、日本機械学会、
(予定) 日本シミュレーション学会、公益事業学会、日本エレクトロヒートセンター

2 講演会

第40回エネルギー・資源学会研究発表会特別講演会

[日 時] 令和3年8月2日(月) 15:30～16:30
[場 所] 立命館大学大阪いばらきキャンパス(予定)

第38回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス特別講演会

[日 時] 令和4年1月25日(火) 16:20～17:30(予定)
[場 所] 東京大学 生産技術研究所 An棟 2F コンベンションホール(予定)

3 講習会

*講習会もしくは講座を年間2回程度開催する。

4 研究会・見学会

*年間4回程度開催する。

5 研究プロジェクト

研究プロジェクト「エネルギーの脱炭素化に関する調査研究」

*第1期(後半)(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

*標記研究プロジェクトを推進する。

委員長 松橋 隆治(東京大学)
副委員長 加藤 丈佳(名古屋大学)、岩田 章裕(関西電力(株))、根田 徳大(東京ガス(株))
アドバイザー 浅野 浩志(電力中央研究所、岐阜大学、東京大学、東京工業大学)、下田 吉之(大阪大学)
委 員 15名

6 研究部会

オータムワークショップ2021

[日 時]	令和3年10月～12月頃
[場 所]	未定
[テーマ]	未定
[世話人]	松橋 隆治 (東京大学)
[代表幹事]	藤野 純一 (地球環境戦略研究機関)
[幹 事]	井上 智弘 (エネルギー総合工学研究所)、井上 麻衣 ((株)リバネス)、上道 茜 (早稲田大学)、 小澤 暁人 (産業技術総合研究所)、白木 裕斗 (滋賀県立大学)、杉山 昌広 (東京大学)、 鈴木 研悟 (筑波大学)、永井 雄宇 (電力中央研究所)、藤澤 星 ((株)フジサワ)、 古林 敬顕 (秋田大学)、山口 容平 (大阪大学)、渡邊裕美子 ((株)Loop)

7 懇話会

*エネルギー・資源・環境に係る諸問題について懇談する場として、年間6回 (東京3回、大阪2回、名古屋1回) 開催する。

第1回エネルギー政策懇話会

[挨拶]	一般社団法人エネルギー・資源学会副会長、懇話会世話人代表	手塚 哲央
[日 時]	令和3年6月10日 (木) 14:40～17:00	
[場 所]	オンライン開催	
[テーマ]	「スマートシティ構築に向けた蓄電池の開発・利用の展望」	
[話題提供者]	1. 池谷 知彦 (電力中央研究所) 2. 太田 豊 (大阪大学)	
[司 会]	小杉 隆信 (立命館大学)、長谷川友安 (関西電力(株))	

第2回エネルギー政策懇話会

[日 時]	令和3年7月頃
[場 所]	東京
[テーマ]	「エネルギー基本計画」 (仮題)
[司 会]	前田 章 (東京大学)、武谷 亮 (東京ガス(株))

第3回エネルギー政策懇話会

[日 時]	令和3年9月頃
[場 所]	名古屋
[テーマ]	「Power to Gas」 (仮題)
[司 会]	加藤 丈佳 (名古屋大学)、田村 守淑 (東邦ガス(株))

第4回エネルギー政策懇話会

[日 時]	令和3年11月頃
[場 所]	東京
[テーマ]	「コロナ禍による原油価格の変化とシェールオイル・ガスへの影響」 (仮題)
[司 会]	伊野 慎二 ((株)構造計画研究所) (もう1名を人選中)

第5回エネルギー政策懇話会

[日 時]	令和4年1月頃
[場 所]	大阪
[テーマ]	「これからのガス事業」 (仮題)
[司 会]	秋元 圭吾 (地球環境産業技術研究機構)、西田 亮一 (大阪ガス(株))

第6回エネルギー政策懇話会

[日 時]	令和4年3月頃
[場 所]	東京
[テーマ]	「COP26」 (仮題)
[司 会]	松橋 隆治 (東京大学)、田口 泰啓 ((株)NTTファシリティーズ)

8 エネルギー施設の災害・安全対策研究会

*本会に参加するエネルギー関連企業や大学・研究機関の専門家が相互に情報を交換し、参加メンバー自らの災害・安全対策に生かすことを目的とした研究会を適宜開催する。

9 研究委員会

2050年に向けた日本のエネルギー需給

*我が国の温室効果ガス低減に向けた長期発展戦略の策定のための情報整理と議論に併せて、長期的なエネルギー需給の道筋に関する調査・検討を行い、その成果を学会会員、学会外に対し提供する。5月頃にシンポジウムを開催する。

家庭部門のCO₂排出実態統計調査利用研究会

*家庭CO₂統計の調査票を共有し、それぞれの研究領域から多様な視点で分析し、意見交換や議論をすすめ、その成果を学会会員、学会外に対し広く提供する。

10 エネルギー検定

*日本エネルギー学会と共同企画により、WEB上でエネルギー検定を進める。

11 受託研究

*本会の目的と合致した場合、受託研究を行う。

12 共催行事

*本会の目的に合致した場合、他の団体との共催行事を開催する。

13 企画実行委員会（茅賞・学生発表賞選考委員会）

*企画実行委員会を5回、茅賞・学生発表賞選考委員会を2回程度開催する。